

平成26年度

教育訓練実施計画



沖縄県消防学校

校訓

一 厳正な規律の保持

一 知識と技術の修得

一 体力と気力の練成

沖繩県消防学校校歌

作詞 滝田常晴
作曲 翁長武俊

一 瑠璃色の海 見はるかす

緑の邦の同胞を
守礼の邦の同胞を
火より水より 守り抜く
われら沖繩県消防学校
学ぶゆくてに 誇りあり

二 炎熱の夏 荒ぶ冬
磨き鍛える身と精神

いざことあらば さきがけて
錬磨の技にぬかりなし
われら沖繩県消防学校
励む月日に 誓いあり

三 デイゴの花のふるさとに
いそしむ日々の雨や風

苦難を超えてたくましく
育む若木 実を結ぶ
われら沖繩県消防学校
進むゆくてに 栄光あり

目 次

I	基本方針	1
II	教育訓練の種類	
1	消防職員に対する教育	1
2	消防団員に対する教育	2
3	その他の教育(消防防災関係者)	2
	平成26年度教育訓練実施計画	3
	平成26年度教育訓練日程表	4
	平成26年度教育科別諸経費内訳	6
	教育内容及び時間数	
1	消防職員に対する教育	
(1)	初任教育	7
(2)	専科教育	
①	特殊災害科	10
②	予防査察科	11
③	危険物科	12
④	救急科	12
⑤	救助科	14
(3)	幹部教育	
①	中級幹部科	16
(4)	特別教育	
①	防火管理指導員研修	17
②	気管挿管・薬剤投与研修	17
2	消防団員に対する教育	
(1)	基礎教育	20
(2)	専科教育(警防科)	20
(3)	幹部教育	20
3	その他の教育(消防防災関係者)	
(1)	女性防火クラブ研修	21
(2)	自衛消防隊研修	21
	付 録	
○	関係書類作成要領	22
○	教育種別携行品一覧表	27
○	案 内 図	28
○	施設配置図	29

平成26年度消防学校教育訓練実施計画

I 基本方針

消防学校で実施する教育訓練は、消防職員、消防団員及び消防関係者に対し、消防の責務を正しく認識させ、社会情勢の変化や技術の発展に的確に対応するために、住民から期待される水準を充たす消防に係る知識及び技能の効率的かつ効果的な修得を図り、もって適切公正、安全かつ能率的に業務を遂行できる消防職員、消防団員及び消防関係者の資質を高めることを目指し行うものとする。

II 教育訓練の種類

1 消防職員に対する教育

(1) 初任教育

新たに採用された消防職員に対し、職務遂行に必要な基礎的知識と技術を修得させるとともに、人格の向上、体力と気力の練成、規律の保持、協同精神の醸成等の教育訓練を実施して、即戦力となる消防職員を養成する。

(2) 専科教育

複雑・多様化する各種の災害に対処するため、災害予防、救急処置、人命救助等の特定分野に関する専門職員を養成する。

① 特殊災害科

特殊物質に関する専門的知識を習得させ、特殊かつ異様な災害への対応を含め、災害の様態に応じた的確な消防活動要領及び隊員の安全管理を優先して適切かつ効果的な消防戦術の指揮技能を習得させる。

② 予防査察科

予防査察業務の現状と課題を理解させ、防火管理、建築規制、違反処理、消防用設備等に関する基本的な権限に基づき、公正・公平に執行できる専門的知識と違反対象物に対する是正技法等を習得させる。

③ 危険物科

危険物化学及び危険性物質の性状等を理解させ、各種実験を通して危険物規制に関する業務上必要な専門的知識と技術を習得させる。

④ 救急科

救急業務の現状と課題を理解させ、救急医学に関する基本的知識と応急処置に必要な解剖生理及び各科の疾病状況に関する専門的知識並びに専門的技術を修得させ、救急隊員の資格を取得させる。

⑤ 救助科

救助業務の現状と課題を理解させ、救助活動に関する専門的知識と技術を

修得させ、強靱な体力と気力を錬成させる。

(3) 幹部教育

組織の管理を職務とする長及び消防部隊の長又はその予定者に対し、事務執行体制のあり方、消防活動時における消防部隊及び隊員管理に必要な知識と技術を習得させ、組織運営を効率的・効果的に推進する幹部職員を育成する。

① 中級幹部科

中級幹部としての責任と立場を認識させ、消防施策立案、部隊員管理及び災害現場指揮概論を再認識させ、有機的な組織管理・運営に必要な知識と手法を習得させる。

(4) 特別教育

① 防火管理指導員研修

自衛消防隊の指導に必要な知識と技術を習得させる。

② 気管挿管・薬剤投与研修

気管挿管及び薬剤投与認定救急救命士を養成する。

2 消防団員に対する教育

(1) 基礎教育

団員の階級にある者に対し、地域防災の担い手としての任務を理解させ、消防組織法の概要及び消防防災対策に必要な基礎的な知識と技術を習得させる。

(2) 専科教育(警防科)

消防団員として概ね三年以上の経験を有する者に対し、警防業務に関する知識及び行動原則並びに各種災害事象における消防団の役割及び活動内容を理解させ災害現場において中核的な活動要領を習得させる。

(3) 幹部教育

班長以上の階級にある者に対し、幹部としての職責を理解させ、災害対応時における指揮及び団員への訓練指導並びに地域住民に対する防災指導に必要な知識と技術を習得させる。

3 その他の教育(消防防災関係者)

(1) 女性防火クラブ研修

女性防火クラブ員等に対し、消防に関する知識及び技術を習得させる。

(2) 自衛消防隊研修

防火管理者講習を修了した者に対し、消防用設備、消火器具及び避難器具等の取扱訓練を実施し、防火管理上必要な知識と技術を習得させる。

平成26年度 教育訓練実施計画

教育種別		延日数	実日数	教育時間	対象	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
						教育科別													
消防職員	初任教育（第46期）		166	114	800	新たに採用された消防職員	7					19							
	専科教育	特殊災害科（第5期）	10	8	56	分隊長等の職制にある者 又はその予定者								10	19				
		予防査察科（第10期）	12	10	70	予防業務に従事している者 又はその予定者									19	30			
		危険物科（第6期）	5	5	35	予防業務に従事している者 又はその予定者								8	12				
		救急科（第53期）	57	38	266	救急業務に従事しようとする者							7		2				
		救助科（第16期）	26	20	140	救助業務に従事しようとする者											16	13	
	教幹部	中級幹部科（第17期）	9	7	49	消防司令又は消防司令補の階級にある者								5	13				
	特別教育	防火管理指導員研修（第5期）	5	5	35	防火管理者指導に携わる者												16	20
		気管挿管・薬剤投与研修（第5期）	44	32	224	認定を受けていない救急救命士										14		27	
	消防団員	基礎教育（第30期）		3	3	21	団員の階級にある者								26	28			
教専科		警防科（第17期）	3	3	21	消防団員として3年以上の経験を有する者					30	1							
幹部教育（第27期）		3	3	21	班長以上の階級にある者 又はその予定											4	6		
その他	女性防火クラブ研修（第19期）		2	2	14	女性防火クラブ員等												24	25
	自衛消防隊研修（第28期、第29期） （2回実施）		1 (2)	1 (2)	7 (14)	市町村の消防長が行う甲種防火管理者講習会を修了した者												18,	19
計	14課程		347	252	1766														

平成26年度 教育訓練日程表

平成26年 4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
	入校式 初任教育 実日数114日 時間数800時間 26日 昭和 振替 の日																													

5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	憲法記念日 3日 みどりの日 4日 こどもの日 5日 振替 6日 初任教育 実日数114日 時間数800時間																														

6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
	慰霊の日 23日 初任教育 実日数114日 時間数800時間																													

7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
	海の日 21日 初任教育 実日数114日 時間数800時間 消防団警防科 実日数3日 21時間																														

8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	消防団警防科 実日数3日 21時間 初任教育 実日数114日 時間数800時間																														

9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
	敬老の日 15日 卒業式 20日 秋分の日 23日 初任教育 実日数114日 時間数800時間																													

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
													体育の日																		
救急科 実日数38日 時間数266時間																															

11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
				文化の日	中級幹部科 実日数7日 時間数49時間																		勤労感謝の日	振替	消防団基礎教育 実日数3日 21時間					
救急科 実日数38日 時間数266時間																														

12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
													特殊災害科 実日数8日 時間数56時間										天皇誕生日								
救急科			危険物科 実日数5日 35時間																												

平成27年 1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	元日											成人の日	気管挿管・薬剤投与研修 実日数32日 時間数224時間																		
													予防査察科 実日数10日 時間数70時間																		

2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
												建国記念日	気管挿管・薬剤投与研修 実日数32日 時間数224時間															
消防団幹部科 実日数3日 21時間										救助科 実日数20日 時間数140時間																		

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
	救助科 実日数20日 時間数140時間													自衛消防隊研修 1日×2回					春分の日	防火クラブ研修 実日数2日 14時間											
													防火管理指導員研修 実日数5日 35時間																		

平成26年度 教育科別諸経費内訳

教育種別		延日数	実日数	調査研究費	食費	雑費	合計	備考
教科別								
消防職員	初任教育（第46期）	166	114	138,700	128,130	52,416	319,246	調査研究費は、学生に支給する教科書参考書等の購入費及び印刷製本費等である。ただし初任教育には、県外の消防施設の視察研修及び無線免許取得（第三級陸上特殊無線技士）のための費用等が含まれている。また、救急科と薬剤投与研修には救急消耗品が含まれている。
	専科							
	特殊災害科（第5期）	10	8	7,040	9,390	3,323	19,753	
	予防査察科（第10期）	12	10	14,695	12,090	4,286	31,071	
	危険物科（第6期）	5	5	21,732	5,860	2,143	29,735	
	救急科（第53期）	57	38	41,321	43,550	16,073	100,944	
	救助科（第16期）	26	20	18,192	24,550	8,572	51,314	
	幹部							食費は日額1,350円（朝370円、昼460円、夕520円）で、積算は教育訓練実日数で算出した。ただし休校日前日の夕食のほか、視察研修、実務研修の際の朝昼夕食は給食しない。
	中級幹部科（第17期）	9	7	7,566	8,040	2,842	18,448	
特別教育								
防火管理指導員研修（第5期）	5	5	390	5,860	2,143	8,393		
気管挿管・薬剤投与研修（第5期）	44	32	67,830	38,670	13,294	119,794		
消防団員	基礎教育（第30期）	3	3	234	3,160	1,180	4,574	雑費は、入校中における生活必需品等の消耗品費、諸行事費用、事務費等である。なお、女性防火クラブ研修、自衛消防隊研修には障害保険料が含まれている。
	専科							
	警防科（第17期）	3	3	234	3,160	1,180	4,574	
幹部教育（第27期）	3	3	234	3,160	1,180	4,574		
その他	女性防火クラブ研修（第19期）	2	2	2,065	1,810	1,506	5,381	
	自衛消防隊研修（第28期、第29期）（2回実施）	1 (2)	1 (2)	3,537	460	404	4,401	

教育内容及び時間数

1 消防職員に対する教育

(1) 初任教育

自 平成26年4月 7日(月)
至 平成26年9月19日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
倫理	現代社会と消防	消防の本質と消防職員の任務	2	学校職員
	地域社会と消防	自治体消防の沿革と基本		
	消防職員の使命	消防の社会的使命と責任 公務員倫理	3	
情報	講 話	業務講話	2	消防長
		社会講話	1	消防協会長
			1	県職員
法制通論	消防行政と法の分類	法治主義の原則、法の統一的運用と解釈	14	外来講師
	法の効力と適用	法の存在形式、成文法の形式的・実質的分類		
	法律関係	法の効力範囲、法の適用と解釈		
	行政法	権利の種類と行使、義務の種類と履行		
	効果測定	体系、行為、手続き、行政強制と行政罰		
消防法	消防法の目的	目的と用語の定義	12	学校職員
	主要規定の概要	火災予防、危険物、消防用設備、火災警戒、消火活動、火災調査及び救急業務の各規定、雑則及び罰則		
	効果測定			
消防制度	地方自治制度	地方自治の意義、法体系、条例と規則	8	
	自治体消防制度	消防制度の沿革、消防の任務と法体系		
	消防の組織	国、県、市町村の組織、消防責任、消防財政		
	効果測定			
服 務 と 勤 務	地方公務員制度	地方公務員制度の基本理念、権利、義務責任	8	外来講師
	消防実務	消防の組織、勤務形態と業務内容、給与制度、福利厚生制度、非常召集訓練	2	消防職員
	文書事務	文書の機能、種類、決裁、公文書作成	8	学校職員
	情報公開	情報公開制度、個人情報保護制度		
	事故防止	交通安全、社会生活上の問題対応		
	人権啓発	差別の実態と歴史、最近の人権問題		
	消防英語	消防関係用語、災害対応会話	8	消防職員
効果測定	地方公務員制度(1)、消防英語(1)	2	学校職員	
理 化 学	電 気	電気の基礎知識	4	外来講師
	化 学	化学の基礎、化学変化の概要、実験	5	
	燃 焼 と 消 火	燃焼の基礎知識、消火理論と消火剤、実験	5	
	効果測定	燃焼と消火(0.5)、化学(0.5)	1	
予 防 広 報	防 火 管 理	防火管理の意義、防火管理制度	10	学校職員
	消 防 広 報	広報・公聴活動 災害現場広報、広報実務	5	
	自 主 防 災	自主防災組織の活動 (「施設見学」にて実施)	4	
	効果測定	防火管理	1	
危 険 物	消防法上の危険物	危険物の範囲、特性、各類危険物の概要	8	
	危険物施設	規制の概要、設置・変更の許可、保守管理		
	指定可燃物等	指定可燃物、消防活動阻害物質、少量危険物		
	効果測定			
小 計			115	

消 防 用 設 備	消防用設備の規制概要	消防用設備の種類、防火対象物、設置単位	12	
	消防用設備の基準概要	消火・警報・避難設備、消火活動上必要な施設		
	着工届及び検査等	検定制度、消防設備士、定期点検報告制度		
	効 果 測 定			
査 察	総 則	査察の概念と法的根拠、査察執行上の留意事項	24	学校職員
	査 察 要 領	査察上の特異性、着眼点、立入検査マニュアル		
	違 反 処 理	査察結果の処理、違反処理マニュアル		
	査 察 実 習	模擬査察、防火対象物見学		
建 築	建築構造・法令・規制	建築構造の分類、建築基準法の体系と構成、確認申請と消防同意、構造制限と防火区画	9	県職員
	効 果 測 定		1	
安 全 管 理	安全管理、精神衛生	意義、活動別安全管理、メンタルヘルス	12	学校職員
	効 果 測 定			
特 殊 災 害 保 安	高 圧 ガ ス	概要、主な高圧ガス	2	外来講師
	放 射 線 と アイソトープ	放射線、放射性同位元素、放射線の危険性	2	
	毒 劇 物	毒劇物の種類・危険性	2	県職員
	火 薬 類	概要、主な火薬類	2	
	石 油 基 地 災 害	概要、活動要領	3	学校職員
火 災 防 ぎ よ	火 災 防 ぎ よ の 概 要	消火の原則、消防戦術、警防計画、装備の活用、部隊運用	29	学校職員
	火 災 防 ぎ よ 行 動	出動準備、覚知と出動、現場到着と水利部署、ホース延長、筒先配備、注水要領、破壊要領、進入要領、救出要領、水損防止、飛び火警戒、残火処理等		
	建 物 火 災 防 ぎ よ	建物構造別、建物態様別、地域態様別の火災		
	建 物 以 外 の 火 災 防 ぎ よ	車両、船舶、航空機、その他火災		
	効 果 測 定			
火 災 調 査	火 災 調 査 概 要	火災調査の目的、責任及び権限	4	
	火 災 調 査 実 務	原因調査、損害調査、火災調査書類	10	
	効 果 測 定		1	
防 災	気 象 と 災 害	気象の基礎知識、注意報と警報、台風	7	国職員
	災 害 対 策	災害対策基本法、防災組織と責任、防災計画	7	
	水 災 防 ぎ よ	水防責任、水防工法、防災訓練、台風対策(2H)	7	
	効 果 測 定		1	
救 急	人 体 知 識	骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系	6	学校職員
	救 急 実 務	救急業務の沿革、意義、体制、責務、関係法令	6	
	救 急 実 技	応急処置法、傷病別応急処置	38	
	効 果 測 定	学科、実科		
消 防 機 械	消 防 用 自 動 車 等	緊急自動車の定義と要件、交通事故対策(4H) 消防用自動車等の分類と用途、通信運用	5	
	消 防 ポ ン プ	ポンプ、水力学、ポンプ運用	8	
	効 果 測 定		1	
訓 練 礼 式	点 検 、 礼 式 、 訓 練	通常点検、敬礼・申告、各個訓練、小隊訓練	50	
	効 果 測 定	学科、実科		
小 計			250	

消防活動訓練	訓練の概要	訓練の目的と安全管理	66	学校職員
	ポンプ操法	集合・乗車・下車、吸管操作、ホース延長、筒先配備、内部進入、放水要領、撤収要領		
	検索及び救出	検索の基本、検索要領、救出及び搬送要領		
	警戒及び広報	警戒区域設定要領、現場広報要領		
	効果測定	学科、実科		
	ポンプ自動車・小型動力ポンプ運用実習	所属消防署にてポンプ自動車・小型動力ポンプの運用要領	21	所属消防職員
救助訓練	概要	救助の意義、救助活動、安全管理	40	
	ロープ取扱技術	小綱、ロープ、カラビナの諸元・性能、ロープの巻き方、携行要領、各種結索法、懸垂線及びブリッジ設定要領		
	行動基礎	降下法、登はん法、渡過法、確保要領		
	効果測定	学科、実科		
機器取扱訓練	各種資器材の諸元・性能・取扱及び点検要領	吸水・放水器具、はしご、とび口、空気呼吸器、ガス測定器、投光器、エンジンカッター、空気鋸、可搬式クレーン、空気式救助マット、防水シート、その他	50	学校職員
	効果測定	学科		
消防活動応用訓練	消火活動訓練	情報収集、ホース延長、筒先配備、内部進入、注水、水損防止、現場広報の各要領	80	
	救助活動訓練	かかえ救助、応急はしご救助、1カ所吊り救助、はしご水平救助、濃煙内救助		
	火災総合訓練	木造・防火造建物火災、耐火造建物火災、林野火災、車両火災、その他		
	救急救助総合訓練	建物倒壊救出、土砂埋没救出、交通事故挟まれ・下敷き救出、集団救急事故救出、その他〔野外訓練、耐久訓練、救助指導会等〕		
体育	体育理論と実技	健康と体力、体力づくり、運動の生理、トレーニング計画、筋力・持久力・調整力及び柔軟性トレーニング要領	45	学校職員(41H) 外来講師(4H)
	障害の予防等 疲労回復	スポーツマッシャー、アイシング、テーピング(4H)		
	効果確認	消防体育会(7H)、体力向上記録会(7H)、耐久走(7H)、体力測定(4H×2回)		
	基本泳法	クロール・平泳、潜水、水難救助の基礎	10	外来講師(6H) 学校職員(4H)
実務研修	消防署勤務実習	当直勤務(2回)、毎日勤務(1回)	35	所属消防職員
選択研修	社会教育	税入門	1	国職員
		ハブ対策	3	県職員
		海洋危険生物	2	
	資格取得教育	無線通信(委託講習)	7	外来講師
水難救助(委託講習)	28			
行事その他	式典	入校式、卒業式	2	学校職員
	実科査閲	消防活動総合訓練(準備含む)	2	
	施設見学	県外消防施設設備等視察	21	
	その他の行事等	刈エンターション(8H)、環境整理(14H)	22	
小計			435	
合計			800	

(2) 専科教育

① 特殊災害科

自 平成26年12月10日 (水)

至 平成26年12月19日 (金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師	
講 話		職責と心構え、消防活動の現状	1	学校職員	
特殊災害の概論		特殊災害の意義と特性 特殊災害に対する消防活動の考え方	2		
危険性物質等の概要	危険性物質等の基礎知識と関係法令	危険物、危険物施設	2	外来講師	
		高圧ガス	2		
		火薬類	2		
		毒・劇物	2	県職員	
		放射性物質	6		外来講師
		生物剤、化学剤			
		化学物質安全性データシートとイエローカード			
テロ災害の特性					
消防活動と安全管理	危険性物質災害及び特殊空間・環境における活動要領と安全管理	積載資器材活用訓練	25	学校職員 消防職員	
		配管等の応急措置訓練			
		危険区域の設定要領			
		要救助者救出・多数傷病者訓練			
		他部隊との連携訓練及び化学災害総合訓練			
		活動時における安全管理	2		
惨事における心理状況					
図上訓練	訓練手法	訓練の目的と実施要領	4	学校職員	
	部隊運用要領	化学災害想定指揮訓練			
消防体育	体力測定	身体能力等の測定	2		
訓練礼式	点検・礼式	点呼、点検及び申告要領	1		
効果測定	検 証	化学災害総合訓練、検討会	2		
行事その他		入校式、修了式、オリエンテーション	3		
合 計			56		

② 予防査察科

自 平成27年1月19日(月)
至 平成27年1月30日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		職責と心構え	1	学校職員
予防査察行政の 現 状 と 課 題		予防査察行政の現状と課題 消防関係法令の改正内容	2	
消 防 同 意	消 防 同 意 の 概 要	建築行政と消防行政との関係 消防同意制度 防火に関する建築規制 消防同意の要領と留意事項	3	消防職員
査 察	査 察 要 領	防火管理と査察要領(4H) 警報設備<令21~24>(4H) 消火設備1<令10~12,19,20>(4H)	12	
査 察	査 察 要 領	消火設備2<令13~18>(4H) 設備規制の概要(4H) 避難設備等<令25~29の3>(4H) 火災予防条例<1章~3章>(4H) 少量危険物<4章~7章>(4H)	20	学校職員
危 険 物 規 制	製 造 所 等 に 対 す る 規 制 と 査 察 要 領	製造所等の保安管理に関する査察着眼点 製造所等の位置・構造・設備に関する 査察着眼点 製造所等の貯蔵・取扱いに関する査察着眼点 危険物施設ごとの査察着眼点	2	消防職員
違 反 処 理	違 反 処 理 の 概 要 違 反 処 理 の 手 続 違 反 処 理 要 領 危 険 物 取 扱 者 及 び 消 防 設 備 士 に 対 す る 行 政 措 置 不 服 審 査 手 続	違反処理の意義、必要性及び行政指導 警告、命令、許可の取消し等、告発、代執行 違反処理の際の基本的留意事項 違反処理マニュアル 危険物取扱者免状及び消防設備士免状の 返納命令に関する運用基準	3	学校職員
査 察 実 習	実 習 1 (防 火 対 象 物) 実 習 2 (指 導 要 領)	防火対象物の査察 建築・設備図書の見方 防火管理者への指導	7 8	消防職員 学校職員
事 例 研 究	実 務 研 究 課 題 討 議	違反処理事例 査察事例 消防用設備設置指導事例 災害事例	4	学校職員
消 防 体 育	体 力 測 定	身体能力等の測定	2	
訓 練 礼 式	点 検 ・ 礼 式	点呼、点検及び申告要領	2	
効 果 測 定			1	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			70	

③ 危険物科

自 平成26年12月 8日 (月)
至 平成26年12月12日 (金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		危険物業務の現状	1	学校職員
危険物行政の現状と課題		危険物行政の現状と課題 消防関係法令の改正内容	2	
危険物化学	各危険物の概要	指定可燃物の貯蔵・取扱	5	外来講師
		消防活動阻害物質の貯蔵・取扱		
		危険物実験		
危険物規制	危険物規制の概要及び許認可	危険物規制の概要・設置・変更	4	消防職員
		危険物施設の保守管理、保安制度		
		許認可の手続、書類審査、設備図面の見方		
危険物規制	危険物施設①	地下タンク貯蔵所・給油・販売・移送取扱所の基準	5	消防職員
	危険物施設②	危険物施設①以外の製造所等・消火設備	5	
	違反処理	危険物施設に対する措置命令	3	
事例研究	実務研究課題討議	危険物規制事務事例	4	学校職員
		違反処理事例		
		災害事例		
消防体育	体力測定	身体能力等の測定	2	
訓練礼式	点検・礼式	点呼、点検及び申告要領	0.5	
効果測定			1	学校職員
行事その他		入校式、修了式、オリエンテーション	2.5	
合 計			35	

④ 救急科

自 平成26年10月 7日 (火)
至 平成26年12月 2日 (火)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
救急業務及び救急医学の基礎	救急業務の総論及び医学概論	救急業務の沿革及び意義、救急隊員の責務等	4	学校職員
		救急医療の現状	2	県職員
		救急医療、救急へり、MC体制	2	医師
			2	医師
		医学概論	2	医師
	解剖・生理	総論及び身体各部の名称、皮膚系、筋骨格系、呼吸系、循環系、泌尿系、消化系、神経系、感覚系、内分泌系、生殖系、その他の系	3	医師
	解剖実習見学	実習・見学	25	消防職員
	社会保障・社会福祉	社会保障の概念、社会保障及び社会福祉の関係法規、社会福祉体制、医療保険	3	大学教授
	救急実務及び関係法規	救急業務の関係機関、救急業務の関係法規	6	大学准教授
		死亡事故の取扱い、救急活動の通信システム及びその運用、救急活動の基礎的事項、救急活動の記録	6	学校職員
			2	学校職員

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
応急処置の総論	観 察 I	血圧、脈拍、循環の観察	2	消防職員
	観 察 II	呼吸の観察、体温、その他	1	
	観 察 III	全身・局所所見の把握、障害の受傷機転、既往症等の聴取	2	医師
			2	学校職員
	検 査	一般検査、生理学的検査、検査機器の原理と構造、保守管理	3	医師
	応 急 処 置 総 論	救命の鎖、ドクターカー、ロード&ゴー、応急処置に際しての留意点	3	医師
	応 急 処 置 各 論	気道確保、異物除去、人工呼吸、胸骨圧迫心マッサージ、酸素吸入、直接圧迫及び間接圧迫による止血、被覆、副子固定、在宅療法継続中の傷病者搬送時における処置の維持、保温、体位管理	16	医師 学校職員
			2	消防職員
			26	学校職員
	多数傷病者事故 災害対応	プレホスピタルケア、救急医療体制、集団災害、トリアージタグ記載要領	11	医師、看護師 消防職員
多数傷病者発生事故の対応				
救 急 資 器 材	観察用資器材、呼吸循環管理用資器材、創傷等保護用資器材、消毒用資器材、その他の応急処置用資器材、搬送・保温用資器材、救出等に必要資器材	4	消防職員	
感 染 防 止 と 消 毒	感染防止、消毒	2	医師	
病 態 別 応 急 処 置	心 肺 停 止	原因、病態生理、病態の把握、応急処置、病態の評価	4	医師
	シ ョ ッ ク ・ 循 環 不 全	〃	3	医師
		〃	2	消防職員
	意 識 障 害	〃	3	医師
		〃	2	消防職員
	喀 血 ・ 吐 血 ・ 下 血	〃	3	医師
		〃	1	消防職員
	一 般 外 傷 (頭部外傷、頸椎損傷含)	〃	5	医師
		〃	4	消防職員
	熱 傷 ・ 電 撃 傷	〃	3	医師
中 毒	〃	3	医師	
溺 水	〃	3	医師	
異物(食道・消化器)	〃	2	医師	
特 殊 病 態 別 応 急 処 置	小 児 ・ 新 生 児	小児及び新生児の基礎的事項、症状からみた小児救急疾患の重傷度判定、小児の事故、心肺蘇生法	6	医師
	高 齢 者	高齢者の基礎的事項、ショック、保温、意識障害、頭痛、胸痛、呼吸困難、その他の疾患	3	医師
	産 婦 人 科 ・ 周 産 期	産婦人科及び周産期の基礎的事項、救急と関連する婦人科疾患、分娩の介助、分娩直後の新生児の管理	4	医師
	精 神 障 害	精神科救急の基礎的事項、精神科救急への対応、病態の評価、精神科の治療	3	医師
	そ の 他 の 創 傷 等 の 処 置	切断四肢の取扱い、多発外傷、鼻出血、眼損傷、口腔損傷、日(熱)射病、寒冷損傷、爆傷、酸欠、急性放射線障害、動物による咬傷、刺傷	4	医師
海洋性有害生物による咬刺傷、減圧症		4	医師	

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
実 習	シミュレーション実習①	傷病別応急処置実習、想定付与による応急処置実習、医療機関との連携等	25	医師 消防職員
	シミュレーション実習②	JPTEC総論、外傷観察、処置、救出固定・装着等（JPTECプロバイターコース）	8	医師 消防職員
	病院実習	応急処置等実習	2	医師
	実務研修	救急車同乗実習	14	消防署救急隊長
効果測定	入校時テスト	救急知識、応急処置等技術	4	学校職員
	中間テスト		1	
	学科考査、実技考査		7	
訓練礼式	点検・礼式	点呼、点検及び申告要領	2	学校職員
消防体育	体力測定	身体能力等の測定	3	〃
行事その他		入校式、修了式、リエンション、環境整理	7	〃
合 計			266	

⑤ 救助科

自 平成27年2月16日（月）
至 平成27年3月13日（金）

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		職責と心構え	1	学校職員
倫 理		救助隊員の心構え	1	
訓練礼式	点 検	通常点検、点呼要領、救助隊点検	2	
安 全 管 理	救助活動における安全管理	訓練時、現場活動時の安全管理体制	4	学校職員
		訓練実施者の配置位置		
		事例研究	2	
		交通事故対策	3	沖縄県警察本部
		メンタルヘルス対策	2	医師
予 防	消 防 用 設 備	救助隊に必要な消防用設備の概要	2	学校職員
現場指揮	災 害 現 場 の 指 揮	現場指揮者の心構えと任務	3	
災 害 救 助 対 策	救助対策と活動事例	救助業務関係法令	2	消防職員
		震災対策 狭隘及び瓦礫救助	3	
		ガス事故対策と事例	2	外来講師
		爆発物事故対策と事例	2	
		電気事故対策と事例	2	
		毒劇物事故対策と事例	2	
		エレベーター事故対策と事例	3	
		シャッター事故対策と事例	2	
		ハイブリッド自動車事故対策	2	
		火災救助対策と事例	2	
		交通事故救助対策と事例	2	
		倒壊建物救助対策と事例	2	
		機械挟まれ救助対策と事例	2	
		水難事故、自然災害救助対策と事例	2	
NBC災害対策と事例	2			

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師	
救急	外傷処置	全身観察、処置、全脊柱固定要領	4	学校職員	
	多数傷病者発生時の処置	トリアージ、応急処置留意事項			
実科訓練	活動基礎	座席・身体懸垂降下、救助工作車資機材取扱	3	消防職員	
	資機材取扱	重量物排除、破壊・切断用救助資機材	4		
		高度救助資機材取扱	4		
	高所救助	梯子水平救助1法、2法	4		
		斜めブリッジ救助	4		
		宙吊り救助、柱上救助	4		
		応急梯子救助、積載梯子取扱訓練	4		
	低所救助	梯子クレーン救助1法、2法	4		学校職員
		立て坑救助、横坑救助	4		
	火災現場対策	濃煙検索救助、注水及び進入要領	4		消防職員
		実火災訓練（ライブファイヤー）	4		
	特殊災害	BC災害対策訓練	4		
交通事故対策	衝突、下敷き、横転事故対応訓練	4			
ロープレスキュー	スタティックロープ、各種資機材取扱	4			
総合訓練	他部隊との連携訓練	梯子車活用訓練	3		
		応用訓練	11		
	想定訓練	学生企画訓練	3		
消防体育	体育理論	メンタルトレーニング、ストレッチ等	1	学校職員	
	体力測定	身体能力等の測定	2		
効果測定	学科考査	救助理論効果測定	1		
	実科考査	救助実技効果測定	4		
その他	行事	入校式、修了式、リエンション、資機材整理	4		
合計			140		

(3) 幹部教育

中級幹部科

自 平成26年11月 5日(水)
至 平成26年11月13日(木)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		中級幹部としての職責と心構え	1	学校職員
訓 練 礼 式	点 検	通常点検等の実施要領、指導要領	2	
	礼 式	物品授受等の指導要領		
消 防 時 事	消 防 行 政	消防行政の現状と課題	2	学校職員
	消 防 法 令	消防関係法令の改正内容	2	
消 防 財 政	財 政 の し く み	地方財政と消防財政の仕組み	2	県職員
	消 防 財 政	消防財政の現状と課題		
人 事 業 務 管 理	組 織 と 監 督	組織の活用と監督の概念	3	外来講師
		上司・同僚・部下との関係		
	人 権	自助、共助、公助参画社会	2	学校職員
		災害心理、惨事ストレス対策		
	情 報 公 開 と 個 人 情 報 保 護	情報公開制度	2	消防職員
		個人情報保護制度		
健 康 管 理 指 導 等	マッサージとテーピング	2	外来講師	
	メンタルヘルス	2	医師	
安 全 管 理	安 全 対 策	安全管理、危機管理体制の確立	4	
		安全管理要領、事故発生時の措置要領		
現 場 指 揮	災 害 現 場 の 指 揮	現場指揮者の心構えと任務	8	学校職員
		現場指揮本部の重要性と効果		
		災害現場広報要領		
	現 場 指 揮 と 安 全 管 理	火災防ぎょ指揮要領と留意点		
事 例 研 究	実 務 研 究 課 題 討 議	法制通論関係	3	外来講師
		消防実務関係	8	
		災害事例		
消 防 体 育	体 育 指 導	トレーニング推進、障害予防、疲労回復等	3	学校職員
	体 力 測 定	身体能力等の把握		
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			49	

(4) 特別教育

① 防火管理指導員研修

自 平成27年3月16日(月)
至 平成27年3月20日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓練礼式	点検	点検要領、点呼要領	2	学校職員
防火管理者制	防火管理者制度	職場における自衛消防隊とその訓練の進め方	4	
	自衛消防訓練	自衛消防指導要領	5	
自衛消防指導実習	訓練礼式	各個訓練	2	
	消火・避難訓練	消火器、避難器具、屋内消火栓操法等	6	
	総合訓練	通報・消火・避難誘導訓練等	6	
効果確認		各種訓練ごとの討議	6	
行事その他		入校式、修了式、リエンション、環境整理	4	
合計			35	

② 気管挿管・薬剤投与研修

自 平成27年1月14日(水)
至 平成27年2月27日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
座学				
気管挿管に必要な構造と機能	気管挿管に必要な呼吸器の構造と機能	気道の構造と呼吸の生理 声門運動と発声、血液ガスと肺循環	8	医師
	気管挿管後の人工呼吸管理	気管挿管後の換気・酸素化障害の原因疾患	2	
気管挿管法の実際	気管挿管法と各種気道確保法	気管挿管の準備と実際 各種気道確保法の特徴、利点、欠点	3	医師
	気管挿管後の気道吸引	気管挿管法の実際と挿管後の気管吸引法		
	気管挿管後の視・聴診的確認法と誤挿管の判断	気管挿管後の聴診法、直視下再確認、EDD、CO2検出法等の実際	2	
	気管挿管困難症	小顎症、頭部後屈困難などの気管挿管困難症の対応	1	
	気管挿管による合併症とその対策	気管挿管に伴う合併症（骨軟部組織の損傷など）	1	
	医療機関で行われる気管挿管と救急救命士による気管挿管	医療機関における気管挿管の方法や目的、適応と禁忌	1	
気管挿管に関するリスクマネジメント	気管挿管に伴う危険因子	気管挿管に伴う危険因子	1	医師
	誤挿管時の対応	誤挿管時の対応	1	
	気管挿管合併症発生時の対応	気管挿管合併症発生時の対応	1	
病院実習を行う前に必要な知識	全身麻酔の実際と手術室の運営	全身麻酔の実際と手術室の運営 インフォームドコンセント	1	医師
	インフォームドコンセント（IC）のとり方	気管挿管実習時のICのとり方（OSCE法による実習）	2	
薬剤投与に必要な構造と機能	薬剤投与に必要な循環器系の構造と機能	心臓の構造と機能 脈管系の構造と機能	4	医師
	循環の制御	自律神経系や内分泌系その他による循環制御機構	2	
	体液・電解質・酸塩基平衡	体液・電解質・酸塩基平衡の基本と異常	4	
心肺停止前後の病態	心肺停止に至る病態	循環・呼吸不全、気道閉塞による心肺停止	6	医師
	心肺停止蘇生後の病態	心肺停止蘇生後にみられる種々の病態	2	

教科目・分類指標	主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師	
気管挿管、薬剤投与が適応となる心停止の病態	心室細動/無脈性心室頻拍	心室細動/無脈性心室頻拍の原因となる病態	2	医師
	無脈性電氣的活動/心静止	無脈性電氣的活動の原因となる病態		
薬剤投与の基礎	薬物の作用	薬物の作用、機序用量・反応、関係薬物の剤型とその特徴	3	医師
	薬物の吸収、代謝、排泄	薬物動態・薬力学の基本 薬物の吸収・代謝・排泄の基本 高齢者・妊婦・小児における薬物動態	3	
	薬剤の投与経路と投与方法	薬剤の投与経路と投与方法	3	
	薬物の有害作用	薬物の主作用と副作用、薬物アレルギー	4	
	薬剤投与の原則	薬剤投与の原則	1	
	薬事法と医薬品	医薬品の定義と分類、保存・保守管理	3	県職員
	輸液製剤（血液製剤を含む）	輸液製剤の分類、輸液療法の意義	4	医師
自律神経系薬	交感神経作動薬/遮断薬 副交感神経作動薬/遮断薬	4		
心肺停止に用いられる代表的な薬剤	エピネフリン、リドカイン、アトロピン、マグネシウム製剤、炭酸水素ナトリウム等	6		
薬剤投与の実際	静脈路確保と薬剤投与に必要な器具	静脈路確保と薬剤投与に必要な器具	1	医師
	静脈路確保とその確認	静脈路確保法と確認法	2	
	薬効評価と観察	心肺停止におけるエピネフリン投与後の薬効評価と観察	2	
	薬剤投与後の合併症と対策	心肺停止におけるエピネフリン投与の合併症とその対策	2	
	器材の廃棄	器材の廃棄	1	
気管挿管、薬剤投与のプロトコール	気管挿管、薬剤投与の適応	気管挿管、薬剤投与の適応となる病態	3	医師
	気管挿管のプロトコール	気管挿管のプロトコール	1	
	薬剤投与のプロトコール	薬剤投与のプロトコール	1	
	心室細動/無脈性心室頻拍のプロトコール	心室細動/無脈性心室頻拍のプロトコール 事例呈示によるプロトコール内容の理解	6	
	無脈性電気活動、心静止のプロトコール	無脈性電気活動、心静止のプロトコール 事例呈示によるプロトコール内容の理解	6	
	病院で行われる二次救命処置	心室細動/無脈性心室頻拍 無脈性電氣的活動、心静止	6	
気管挿管、薬剤投与とメディカルコントロール	気管挿管、薬剤投与に関するメディカルコントロール体制	気管挿管、薬剤投与におけるメディカルコントロール体制の意義	2	医師
	気管挿管、薬剤投与における医師、救急救命士間の連携	メディカルコントロール体制下の気管挿管・薬剤投与と指示・連絡体制	2	
	活動記録と事後検証	気管挿管・薬剤投与における活動記録の記載と事後検証法	2	消防職員
気管挿管、薬剤投与と生命倫理	気管挿管、薬剤投与に関わる生命倫理	気管挿管、薬剤投与に関わる生命倫理	2	医師
	気管挿管、薬剤投与の説明のあり方	気管挿管、薬剤投与の説明のあり方	2	

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
薬剤投与に関するリスクマネジメント	リスクマネジメント	病院での医療事故に対するリスクマネジメント	3	医師
	薬剤誤投与と対策	薬剤誤投与への対策	3	
	針刺し事故と対策	針刺し事故による感染症と発生時への対策	3	
	気管挿管、薬剤投与に関する医療訴訟	気管挿管、薬剤投与に関する国内外での医療訴訟	2	
	救急救命士における法的責任	救急救命士における法的責任	2	
病院実習を行う前に必要な知識	スタンダードプレコーションと清潔操作	スタンダードプレコーションの概論と実際 手術室における感染対策 薬剤投与における清潔操作の実際	3	医師
実習				
気管挿管、薬剤投与に関する基本手技の実習	薬剤の保管・管理・取り扱いの実際	薬剤の保管・管理 薬剤の取り扱い	2	医師 消防職員 学校職員
	薬剤投与の準備	病院内を想定した薬剤投与の準備	4	
	人形を用いた気管挿管・薬剤投与のトレーニング	病院内を想定した薬剤投与の実施 院外心肺停止事例を想定した気管挿管・薬剤投与の実施	12	
シミュレーション等による気管挿管、薬剤投与実習	気管挿管・薬剤投与プロトコールの実施	連携を想定した気管挿管・薬剤投与の基本プロトコール実習	12	医師 消防職員 学校職員
		事例呈示による気管挿管・薬剤投与シミュレーション実習	26	
	使用後の薬剤や注射器の取り扱いと安全管理	使用後の薬剤や注射器の取り扱いと安全管理	4	
効果測定	学科考査、実技考査	入校時プレテスト 気管挿管・薬剤投与の基本手技の実技試験 OSCEによるプロトコール実技試験	19	医師 消防職員 学校職員
行事その他		入校式、修了式、オリエンテーション、資器材整備	9	学校職員
合 計			224	

2 消防団員に対する教育

(1) 基礎教育

自 平成26年11月26日(水)
至 平成26年11月28日(金)

教科目・分類指標	主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講話	職責と心構え	1	学校職員
訓練礼式	各個訓練、敬礼動作、小隊訓練、通常点検要領	2	
組織制度	消防団の概要・活動	1	
ポンプ操法	放水訓練	4	
	消防ポンプ操法の概要		
火災防ぎよ	通論	2	
防炎	災害対策	2	
救急救助	救急法	4	
	救助法		
安全管理	危険予知訓練	2	
行事その他	入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合計		21	

(2) 専科教育（警防科）

自 平成26年7月30日(水)
至 平成26年8月1日(金)

教科目・分類指標	主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講話	職責と心構え、消防団員と地域総合防災力	1	学校職員
訓練礼式	各個訓練、敬礼動作、小隊訓練、通常点検要領	3	
火災防ぎよ	通論、防ぎよ活動	10	
	想定訓練		
防炎	災害対策	2	
安全管理	危険予知訓練	2	
行事その他	入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合計		21	

(3) 幹部教育

自 平成27年2月4日(水)
至 平成27年2月6日(金)

教科目・分類指標	主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講話	幹部としての職責と心構え	1	消防協会長
訓練礼式	指導要領	4	学校職員
現場指揮	現場指揮要領		
	想定訓練	小隊の編成と整頓、敬礼、通常点検 点呼、物品授受、申告 現場指揮の重要性と効果 建物火災指揮訓練	
防炎	災害対策	2	
	住民指導要領	4	
安全管理	危険予知訓練	2	
行事その他	入校式、修了式、オリエンテーション	2	
合計		21	

3 その他の教育（消防防災関係者）

（1）女性防火クラブ研修

自 平成27年3月24日（火）
至 平成27年3月25日（水）

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓 練 礼 式	訓 練	各個の訓練、部隊訓練	3	学校職員
ポ ン プ 操 法	軽 可 搬 ホ ン フ 操 法	基本動作	4	
消 火 訓 練	消 火 器 操 作 訓 練	消火器の取扱い	3	
救 急	応 急 手 当	心肺蘇生法、AED取扱い	2	
行 事 そ の 他		入校式・修了式	2	
合 計			14	

（2）自衛消防隊研修

第1回 平成27年3月18日（水）
第2回 平成27年3月19日（木）

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓 練 礼 式		各個訓練	1	学校職員
防 火 管 理 者 制 度		職場の防火管理のあり方	1	
消 火 ・ 避 難 訓 練		消火器、避難器具、屋内消火栓操法等	3	
総 合 訓 練		通報・消火・避難誘導訓練等	1	
行 事 ・ そ の 他		入校式・修了式	1	
合 計			7	

付 録

- 関係書類作成要領
- 教育種別携行品一覧表
- 案 内 函
- 配 置 函

関係書類作成要領

1 入校申込み書類について

消防職員等を消防学校に入校させようとする場合は、沖縄県消防学校規則第6条の規定に基づき、入校申込書と本人の履歴書を提出してください。

2 入校申込書について

- (1) 申込み者は、消防職員及び女性防火クラブ員については消防長、消防団員については消防団長名となります。
- (2) 入校申込者が2名以上いる場合でも、申込書は1枚でもって作成すること。

※ 記入例

階 級	記 氏 名
消防士長	消 防 太 郎 <small>しやう ぼう た ろう</small>
消 防 士	消 防 次 郎 <small>しやう ぼう じ ろう</small>
消 防 士	消 防 三 郎 <small>しやう ぼう さぶ ろう</small>

3 履歴書の作成について

履歴書の作成にあつては、タイプ浄書又はペン（ボールペン可）書（黒）により、横書きとし、数字は算用数字を用い記入する。

- (1) 所 属 吏員にあつては出張所（分遣所）名まで、団員にあつては分団名まで記入する。
- (2) 氏 名 住民基本台帳による実名とし、ふりがなをつける。
- (3) 生年月日 入校日を基準とし、元号(昭和等)年月日を記入する。
- (4) 現 住 所 主たる住居とし、緊急連絡可能な電話番号を記入する。
- (5) 最終学歴 教育基本法に定める学校を記入する。
- (6) 階 級 入校日現在の階級を記入する。
- (7) 採用年月 消防吏員又は消防団員として採用された元号年月を記入する。
- (8) 消防経験年数 入校日を基準とし採用年月から起算し、1ヶ月未満は切り捨てる。
- (9) 消防学校等歴 消防学校又は消防大学校を修了もしくは卒業した者は、期別ごとに科(課程)名を記入すること。
- (10) 職 歴 入校日から起算して、直前の勤務歴（士長昇任、警防課、予防課、民間会社、官庁等の勤務歴）を記入欄の範囲で順をおって記入する。
- (11) 健康状況 有・無に○で表示し、既往症有の場合は、（ ）に病名等を記入する。
- (12) 喫煙の有無 有・無に○で表示する。
- (13) 特 技 趣味又は本人の最も得意とする技量等を記入する。
- (14) 資格・免許等 許可行政庁の発給する免許名、免許以外の資格名を記入する。
- そ の 他 作成にあつては、作成例を参考にして下さい。

第1号様式（第6条関係）

第 号
年 月 日

沖縄県消防学校長 殿

消防本部名
(消防団名)
消 防 長 名
(消防団長名)



入 校 申 込 書

下記の者を貴校における
させたいので、申込みます。

教育 科 課程に入校

記

階 級

ふ り が な
氏 名

履 歴 書

所属 消防本部（消防団）

ふりがな		生 年 月 日		性別	
氏 名		年 月 日 生		男 ・ 女	
現住所	〒				
最終学歴	昭和 平成	年 月	学校	学部 科	卒業 中退
階 級		採 用 年 月		消 防 経 験 年 数	
		昭和 平成	年 月	年 月	
消防学校歴	年 月		職 歴	年 月	
	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
消防大学校歴	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
健康状況	既往症 有（ ） 無			喫煙の有無 有 無	
特 技					
資 格 ・ 免 許 等					

第2号様式（第6条関係）

履 歴 書

所 属 南部町消防本部 北消防署中出張所

ふりがな	やま かわ いち ろう	生 年 月 日	性別
氏 名	山 川 一 郎	昭和30年 10月 25日 生	⊙男・女
現 住 所	南部町字北部123番地 中部マンション204号室 TEL 098-777-8888		
最終学歴	⊙昭和 平成 53年 3月 国際沖縄大学	法経学部 商学科	⊙卒業 中退
階 級	採 用 年 月	消 防 経 験 年 数	
消防司令補	⊙昭和 平成 55年 4月	22年 3月	
消防学校歴	S56年 10月	第13期初任教育	職 歴
	S56年 11月	第11期救急科	
	S58年 4月	第12期警防科	
	S63年 4月	第3期初級幹部科	
	H7年 12月	第20期予防科	
	H10年 11月	第7期中級幹部科	
消防大学校歴	H13年 9月	第26期幹部研修科	S53年 4月 第1不動産株式会社
	年 月		S55年 4月 南部町消防吏員拝命、総務課付
健康状況	既往症 ⊙(H9年 胃潰瘍) 無	喫煙の有無 有 ⊙無	S56年 10月 署第1警備係
			S62年 4月 消防副士長
			H2年 4月 署第2警備係
			H6年 4月 消防士長、本部予防係主任
			H10年 4月 署第1警備分隊長
			H12年 4月 消防司令補、本部総務係長
特 技	空手、司会業、油絵、マラソン、古典音楽		
資 格 ・ 免 許 等	英検2級、手話通訳、玉掛け技能、古典音楽(太鼓)師範 ----- 大型二種自動車、救急救命士、特殊無線技士		

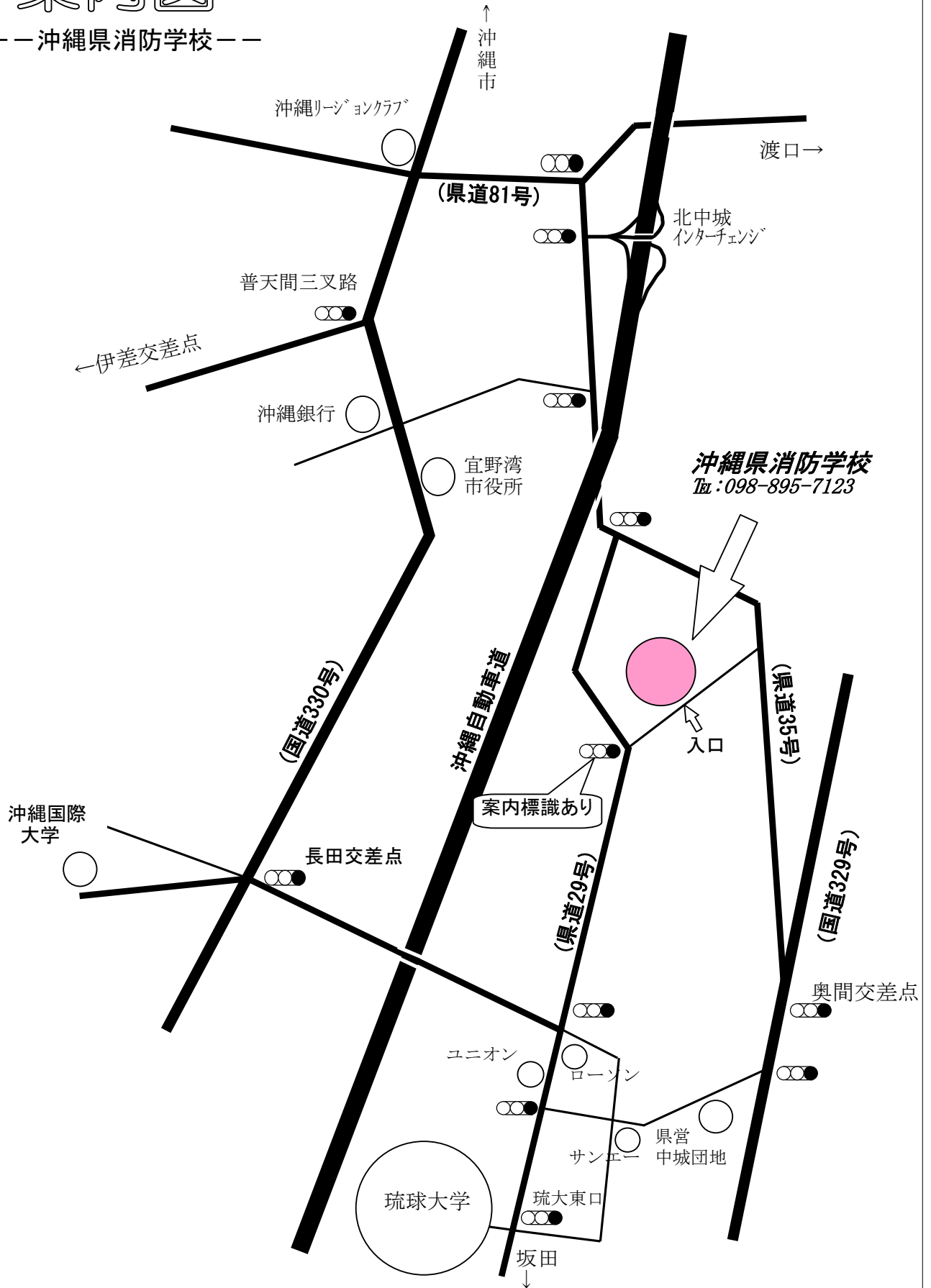
教育種別携行品一覧表

教育種別		制服 制帽	短靴	印鑑	健康 保険証	トレーニング ウェア	運動靴	体育館 シューズ	上履き	活動服 (作業服)	アホ ^o 帽	洗面 用具	その他	
														教育科別
消 防 職 員	初任教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	保安帽、編上靴、防火衣、訓練用手袋 白手袋、水泳着（ラッシュガード）	
	専 科	警防科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	保安帽、救助手袋、編上靴、小綱、カビナ
		特殊災害科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		予防査察科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	電卓、立入検査証
		危険物科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
	教 育	火災調査科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		救急科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救急・救助六法、白衣
		救助科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救急・救助六法、救助服、保安帽 救助手袋、編上靴、小綱、カビナ
	幹 部	初級幹部科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	自治六法、保安帽、救助手袋、編上靴
		中級幹部科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		上級幹部科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
	特 別	水難救助研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	潜水器具一式、予備ポンベ
		ポンプ操法指導員研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救助服、保安帽、救助手袋、編上靴
		防火管理指導員研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	保安帽、救助手袋、編上靴
気管挿管・薬剤投与研修		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救急・救助六法、白衣等	
消 防 団 員	基礎教育			○	○	○	○	○	○	○	○	○	編上靴、救助手袋	
	専 科	警防科			○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		幹部教育			○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
	特 別	操法科			○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		現地教育									○	○		〃
そ の 他	女性防火クラブ研修	○		○	○	○	○	○	○		○	○	制服の支給がない場合は平服	
	自衛消防隊研修			○	○					○				

※ 制服の着用期間について、4月から11月までの間は夏服（半袖）、12月から3月までの間は冬服です。

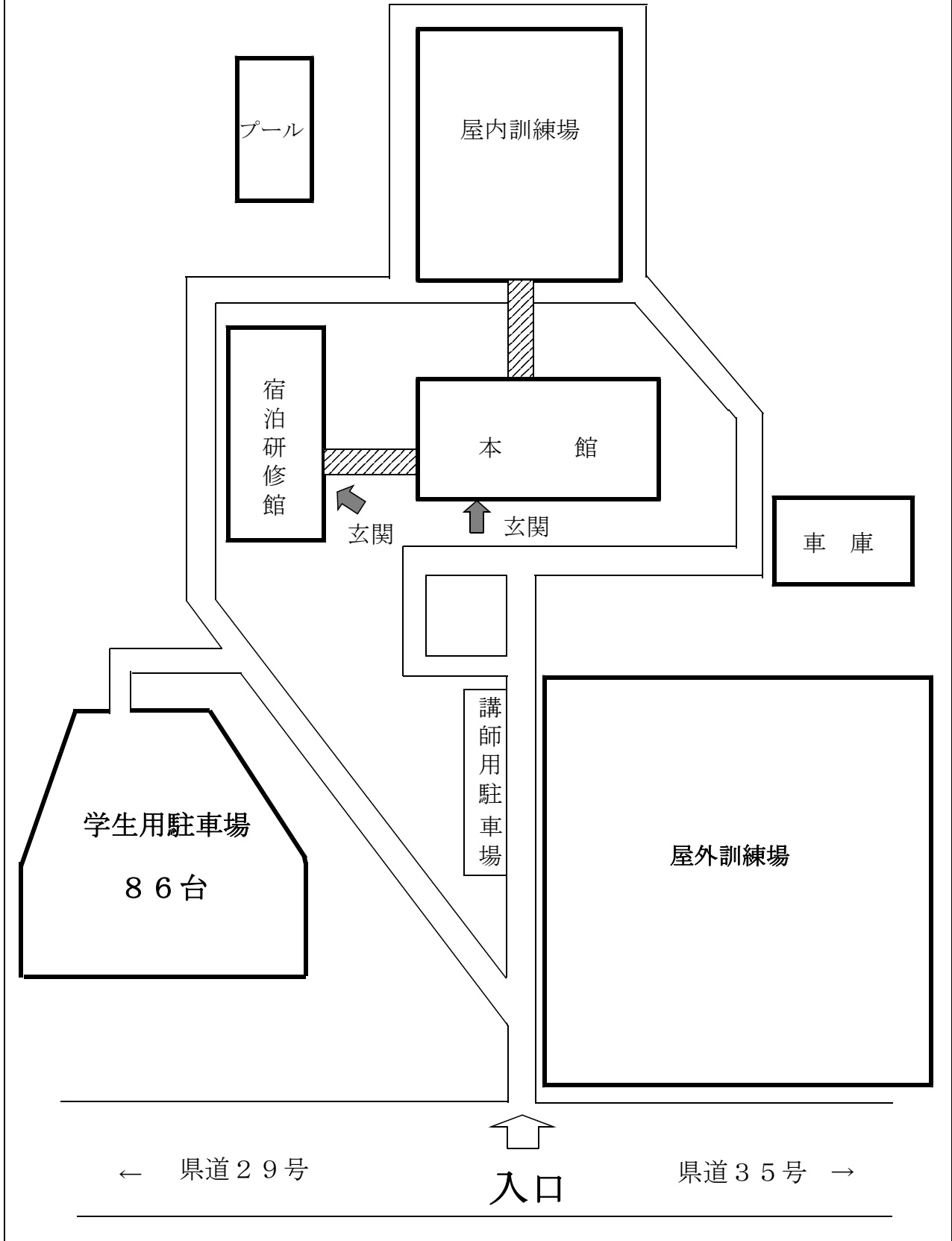
案内図

— 沖縄県消防学校 —



施設配置図

— 沖縄県消防学校 —



平成26年度
消防学校教育訓練実施計画

編集発行 平成26年1月発行
沖縄県知事公室消防学校
〒901-2423
沖縄県中頭郡中城村字北上原 910 番地
TEL (098)895-7123 (代)
FAX (098)895-5034
学生寮 (着信専用) (098)895-6555
